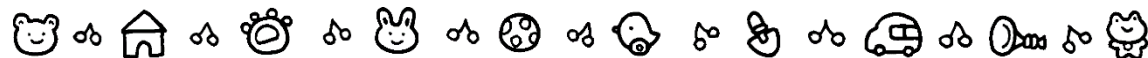




12月に入りすっかり寒くなってきていますね。風邪などひかないように、あたたかい服を着たり、温かい食べ物を食べたりしながら寒さ対策をしてくださいね。紅葉も美しく、赤や黄色になった葉っぱを見つけたり、どんぐりや松ぼっくりを拾ったりすることもできます。落ち葉の上をカサカサ音を立てて散歩することも楽しいですね。太陽のもとで元気に過ごすとともに、冬支度を親子で楽しんでくださいね！



<わがままになってしまう・・・??>

くりかえされる「だだこね」に対して、初めての子育てに挑戦しているお母さんお父さんは、子ども以上にいらだちながら日々を送っているかもしれません。そのいら立ちゆえに「ダメ！」を連発したり、ことさら無視したり、時には叱りつけることになってしまうでしょう。「だだこね」の意味が分からないので、子どもの精神的な「間」が持てない状態におちいっているのです。子どもにとっては、その抑圧感が一層いらした心の状態を強めることになります。

相手の出方をうかがう力の備わった「だだこね」は、子どもが自分と相手の要求を2つのお皿のように並べて、どちらから食べようかと思索しているようなものです。そんなとき、「相手の提示した皿も魅力あるものとして受け止め、その2つの間で揺れ動きながら、切り替えたり、折り合ったりすることができるように、子どもの心を整えてあげましょう」と分かりやすく伝えます。

そのうえで、もっと大切なことを分かち合いたいと思います。つまり、「がまん」という心のはたらきは、「がまん、がまん」と子どもを説得するような「しつけ」で身につくようなものではありません。がまんは、自分で自分をコントロールすることであり、自分をコントロールできる確かな自分、つまり自我の発達によって可能になるのです。

たとえば、自分の失敗から立ち直る力は、生活や遊びのなかで、自分への手ごたえ、達成感の蓄積から生まれてくることです。自分で片づけられる喜び、自分でクツをはいたりシャツを着る喜びは、たくましくて、しなやかな自我につながります。また、新しい遊びがたくさんあ

り、満足して遊びこめることは自我を育てますが、それだけではなく、その遊びを自分で締めくくる経験にもつながります。本当に楽しいことを知っている子どものみが、楽しいことには満足の次にピリオドがあることを知り、そしてほんとうの「がまん」や「おしまい」の意味を知ることができるのです。大人も、子どもの満足感、達成感を実感できるからこそ、「もうおしまいね。がまん、がまん」ということばを、躊躇なくかけることができるのではないのでしょうか。このようなメリハリが、今の子どもの生活にはたらないのではないかと思います。

つまり、生活でも遊びでも、「楽しかったね」「よく頑張ったねえ」などと感じられる余韻が残ることが大切なのです。このような余韻は、子どもだけでなく、大人の労働や生活にも必要です。しかし現実には、次々となさなければならぬことが多く、「やったー！」という達成感や余韻にひたる余裕はありません。ほんとうのがまんは、主人公として自分の時間をコントロールできることですから、がまんが意味を持つ生活がいかなるものかを、子どもとともに考えたいものです。

『やわらかい自我のつぼみ～3歳になるまでの発達と「1歳半の節」～』白石正久 著



次回のめだか教室は…『だんぼーるすべりだい』をします！

めだか① 1月14日(火)

めだか② 1月28日(火)

<持ってくるもの> お茶・着替え(必要な人)

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- お休みをされる場合は、学園までご連絡下さい
- **参加費は無料です。**制作や、クッキングの活動の時には材料費として+100円いただきます。その都度お知らせします。おつりのいらぬようご用意下さい
- 活動は主に草笛学園遊戯室です
- 靴は下駄箱に入れて下さい
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えて下さい)
- きょうだい児の参加は、ご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切って下さい

